さんむ医療センターからのお知らせ

看護助手・クラークという職種を多くの人に知ってもらいたい

新型コロナウイルス感染症の全国的な流行により、医療機関で働く医療従事者のことなど、医療現場の現状について、ニュース等で伝えられることが多くなっています。

特に感染者数が増えると、医療資源（人口比や感染者数比で対応する医療機関や医療従事者等）の少ない地域を中心に、医療崩壊という言葉で危惧され、そこで働く医療従事者は通常の診療に加え、新型コロナウイルス感染症による発熱者や陽性患者の対応に奔走しています。

さんむ医療センターも指定医療機関として、発熱外来や陽性患者の入院受け入れを行っており、職員は二次感染や院内クラスターの発生防止等、感染防止対策を徹底のうえ日々勤務しています。

その実際は、看護助手やクラークの大きな支えがあって、日々の診療が円滑に行われているのです。

では、その看護助手、クラークとはどのような仕事をしているのでしょうか。

◆看護助手・クラークの業務内容

〔看護助手〕病棟では、入院患者さんの食事介助や入浴介助等の身体介助業務のほか、清掃や物品運搬、病床のシーツ交換も担当しています。このほか、手術室・中央材料室では、使用する医療機器の洗浄や滅菌、清掃を行っています。

〔クラーク〕外来診療において円滑に進めるための準備、患者様の誘導、情報の伝達、事務作業を担当します。病棟では、入院患者さんやご家族、お見舞いに来た方への対応や、入退院の管理、そのほか事務業務も行います。外来クラークと医療事務の仕事は似ていますが、診療報酬請求業務の有無が大きな違いです。外来クラークはその業務を行いません。

◆さんむ医療センターの看護助手・クラークの職員数

さんむ医療センター看護部には、養成校を卒業し国家試験に合格した看護師、助産師、それから歯科口腔外科の外来で勤務する歯科衛生士等が所属しており、看護助手、クラークもここに含まれます。

看護部は、正職員および非常勤職員合わせて227人の職員で構成され、うち看護助手とクラークは43人在籍しています（令和４年９月１日現在）。

◆無資格、未経験でも働くことができる

看護助手、クラークは医療行為を行うことができません。しかし、患者さんの近くで寄り添うことが多い職種であることから、非常に大きなやりがいを得ることができます。また、資格を必要とせず、未経験でも働くことができることから、誰でも地域医療を支えるひとりにチャレンジすることが可能です。そして、介護福祉士や看護師を目指す方も多く、ステップアップできる職種でもあります。

◆職員募集について

さんむ医療センターでは、看護助手およびクラークを募集しています。詳しくは病院ホームページの採用情報をご覧いただくか、総務課人事係までお問い合わせください。

地方独立行政法人さんむ医療センター　理事・看護部長　井上純子

総務課人事係長　戸倉輝明